

眞形水雷検定發射成績表

C861



明治三十四年八月廿九日
 旅鎮参謀長 右
 第二部長

海軍

明治三十四年奥形水雷檢定及射實施規程中

指定連力等ノ解釋ニ關スル件

提

旅鎮機密第三四九號ヲ以テ貴府長官ヨリ而抽出相成ヌ檢定及射圖
 スル由昔見中々四部奥雷指定連力等ノ解釋ニ就テ疑義ニ涉ル
 諸點列記有之矣處該解釋ハ左記ノ通ニ有之ヲ示シ知ル

外

右依奉通知ス

教本機密第三五三號

(右 海軍)

0862

左記

一、指定速力ト一定ノ調和雷彈子壓縮度ニ對スル莫雷ノ固有速力ニ
 射場ノ潮流等ヲモ加味シ實際方位盤ニ調コト決定セル雷速ヲ稱
 スルモノニシテ必要アレハ發射前ニ之ヲ變更スルコトヲ得
 二、實速力トハ前彈ノ指定速力ヲ以テ行進スルコト豫期シタル莫雷
 力實際ノ發射ニ於テ現示シタル視速力(潮流等ヲ加味セタルモノ)
 ニシテ發射教範所載ノ雷速測定法ニ依リ測定トスルモノトシテ
 八、実施規程第十三條採点法中雷速ニテ五秒以上及未滿トスルハ指
 定速力ニ就テ言フモノトス
 三、潮流測定ノ為ニ特ニ冬季及夏ヲ置カレタルハ雷速ノ研究ハ夏季ノ潮
 流ヲ測定スルノ必要ヲ認ラレタルニ依ル

花崎

供

海

育木部

軍務局

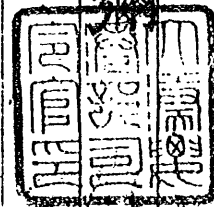
艦政本部

軍令部

明治四十五年八月廿日

海軍大臣野澤齋藤實殿

大湊要港部司令官上泉徳彌



軍務局接受
44.九月廿日

馬

第二

大湊要港部檢定發射成績表

壹通

檢定發射二付講評表訓示

壹通

魚形水雷檢定發射實施要領書

壹通

檢定發射二付各自意見

壹通

右提出不

第一節 別紙 圖添付

會計課

課

第二班

高嶋

海軍

9-27A
0864



大湊要港部檢定發射成績表

驅逐艦ノ部

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	優等章	照準手官職氏名
雷	一	保式十八吋 七形旋回	三二式	五十八分 五十三分	三	三	九六七	高水一 優等章	一等水兵 松本和三郎
龍	二	全右	三七式	五十八分 五十三分	三	三	六六七	高水一 優等章	一等兵曹 酒井藤三郎
曙	三	全右	三七式	五十八分 五十三分	三	三	八三六	高水一	二等兵曹 渡邊富郎
龍	四	全右	三七式	五十八分 五十三分	三	三	八〇〇	高水一	二等兵曹 網野光信
雷	五	全右	三七式	五十九分 三十九分	三	一	三二七	高水一	一等兵曹 千葉富吉
曙	六	全右	三七式	五十九分 三十九分	三	一	二〇〇	高水一	一等兵曹 恒川俊次郎

敷設隊ノ部

敷設艇	敷設艇	敷設艇	敷設艇
一	二	三	四
十八吋海防魚形水雷發射機	全右	全右	全右
三四式	三四式	三四式	三四式
三十三分 二十七分	三十三分 三十三分	三十三分 三十三分	三十三分 三十三分
三	三	三	三
三	二	二	二
六六七	六三三	六三三	六三三
高水一 優等章	高水一 優等章	高水一 優等章	高水一 優等章
二等兵曹 菅原繁司	一等兵曹 菅原俊郎	一等兵曹 宇部第三	一等兵曹 竹内長太郎

明治四十四年八月二十六日

大湊要港部司令官 上泉 德彌



0865

檢定發射ニ付講評及訓示

本年度檢定發射ハ諸氏ノ熱誠踴躍ト不斷、拮据研究トニヨリ全體ヲ通シ一ノ故障ナク回滿ニ茲ニ終結スルヲ得タリ然レモ觀テ其成績ヲ顧ミルニ去前年度比レ向上ノ痕ナリ却リテ方ルヤノ觀ナキ能ハサルハ大ニ遺憾トスル所ナリ蓋シ魚雷及縱舵機ノ衰耗幾分カ其因ツナセラルヘシト雖モ術力ノ足ラサル之カ大原因タルヲ疑ハス大レ機力ノ缺ヲ補フハ術力ナリ諸氏奮大奮勵不斷ノ研磨ト固到ル注意スツテ斯術ノ討究ニ盡シテ其大成ヲ期スヘキナリ茲ニ本發射中ノ経過ヨリ諸氏ノ注意ヲ喚起セルムモノニ三ヲ其年ガ訓示スル所アラントス

一 敷設隊

鋪設ニ直シテ機軸系ノ轉舵ヲ為セシモノアリ之レ命中ノ精度ヲ害スルモノナルヲ明カナリ

魚雷船跡ノ著ク蛇行セルモノヲ見レ縱舵器調整ノ不良ニ因ルヲト諒ム

魚雷ノ動作ハ操式ニ叶ヒ發射軍紀亦良好ナラ認ム

一 驅逐隊

各艦共運動法ハ概シテ適切ナリモ發射航路ニ入りタル後射距離ノ誤差ハ一重キヲ置キタル為メ度々小角度ノ轉舵ヲ行ヒ艦ヲ蛇行セシメモアリ斯ノ如キハ照準手手ヲシテ發射位置附近ニ於テ照準角度ノ等齊ヲ失ヒ照準難ナリメ近テ不命中ノ原因トナルモノナリ艦ノ外各艦共右舷發射ヲ以テシテ悉ク其成果右方ニ偏シタリ攻守尤モ重キトスヘキモノト認ム

曙者ニ於テ前部發射管發射ノ瞬時管ノ甚シク動揺シ約一度ノ激動旋回セラレタル見タリ斯ノ如キハ不命中ノ因ナルヘキヲ以テ手素索嚴密ナル注意ヲ要ス
 兵員ノ動作及發射軍紀ハ良好ナリ

之ヲ要スルニ各員熱心ニ能ク斯術ノ為メ盡瘁セラレタルモ尚兵員中過信シテ之ヲ完全視シ之ニ對シテ嚴密ナル注意ノ缺ク所アルヲ認ム其機力ノ整備セザルハ尙欠ク曲ゲテ子ヲ射ルニ等シク疑眼及テ總テノ部分ヲ精査シ要差視差ニ於テ充分ナル調査ヲ行ヒ其遺憾ナキニ於テハ完全ナル術カト相俟テ大成ヲ期スルヲ得キナリ

明治四十四年八月 日
 大湊要港部司令官上原徳彌

0867



明治四十四年 大森東港部 魚形水雷檢定發射實實施要領

第一 綱 領

- 一 本發射ハ魚形水雷發射規則及本年度檢定發射實實施規程並ニ
由令第八號ニ據ルノ外本要領ニ依リ實施スルモノトス
- 二 發射艦艇ノ發射順序曰割手委員委員附及其分擔ヲ定ムル別
表第一號ノ如ク
- 三 各發射艦艇ハ本發射開始ニ曰前迄ニ別表第二號發射要表ニ通
テ本職ニ提出ス
- 四 各隊司令ハ各其隊發射艦艇ノ順序並ニ各艦艇毎ニ發射機ノ發射順
序ヲ定メ前項ノ報告ト共ニ提出ス
- 五 發射隊司令ハ中ノ澤崎ヨリ正西ニ澤崎ヨリ正南ニ劃シテ包圍シ
海面内ニ射所位置ヲ選定スレテ之レカ設備ハ知港事ノ擔任トス
各隊司令ハ知港事ノ請求アリハ之レニ應ジ其業放ヲ補助スルヲ要ス而
シテ知港事ハ射場設備ノ略圖ヲ調製スレテ發射開始ニ曰前迄ニ提出ス
- 六 發射艦艇ハ當日前七時十五分出港射場ニ向テトス
關係諸員ハ午前八時迄ニ各配置ニ附テ要ス
- 七 發射艦艇ニ於テ各級指揮官ノ發射機關ニ關シ諸隊令ハ發射機操式草
案ニ據リ確實ニ勵行ス

八 索射艦一艘ヲ其員ハ半奇八時ニ於テ當日第一着索射艦一艘ニ於テ掲ケル
標時旗降下後各自ノ時辰ヲ校正スヘシ

九 駆逐艦長及敷設隊分隊長(水雷長職務擔任者)ハ其艦一艘索射當日
各艦各空氣一壓力計ヲ修理工場原基一壓力計ト比較シ其正否ヲ確メ
若シ誤差アリハ其員重テ計リ成績ヲ先任委員ニ報告スヘシ

十 各艦一艘及委員ニテ使用スルノクララレハ豫メ其示指ノ精確ナルヤ否ヤヲ
検査シ置テ置クヲ要ス

第二 索射

一 索射ニ先テ各索射機ニ一週ノ試射ヲ許ス

二 誤射ハ其索射ヲ終リタルモト認ム

三 水雷揚収及運搬ノ外索射機操式草案ホテ定ムルニ索射機
員以上ノ員數ヲ使用スルヲ得ス

四 敷設艦ハ一艦ノ索射機ニ於テ第三回ノ索射準備終了迄ノ時間ヲ
二時間以内トシ其衣氣管管頭ノ時ヨリ索射準備終了迄ヲ測定スルモノ
トス

敷設艦ノ衣氣管第一大湊丸ヨリ供給ス

五 各索射艦艦長ハ其艦ノ索射機ニ在リテ索射艦一艘ノ其索射位置並ニ附
近ノ在リテ行動スルヲ要ス

其五

第三 監視的

標の中央ハ特別の監視的標ヲ敷設シ
其中ハ常設監視用標竿ヲ植立監視的標竿之ヲ存ス

其六

奥雷ノ標的面ヲ通過シ時機ヲ監視シ適宜取扱ニ便スルヲ以テ確定迅速之ヲ信號スルヲ要ス又標
の準備整ヲ毎々整備旗ヲ揚シ發射艦艇ノ應旗ヲ見テ之ヲ下スモノトス

的線若クハ標的網ヲ通過シテ其ノ傾斜又ハ水面ヨリ見ル
左右ノ概果位置ヲ信テ之ヲ次ニ觸痕ヲ模シテ後尤右及深度ノ正確
ニ信テ之ヲナスモノトス

十七 音號ノ信號ヲテ如ク規定ス

〇 旗又號旗偏差右某米矣 (百兆單位)

〇 旗又號旗偏差左某米矣 (全 右)

〇 旗 深度某米矣 (全 右)

例ハ〇〇ハ偏差右二米ヲ示シ二〇ハ深度二米三百九ヲ示ス

例(〇) 方位右左二〇ハ北米矣ヲ示スカ如シ

行中ハ必要ノ監視ハ深淺標竿ノ場合ニ應ズル位置通過後標竿ノ位置
ノ位置モノトス

0873 0872 0871 0870

五九

第三

並的

六〇

船中、海軍備旗、揚、泰射艦、應、旗、先、水、面、標
 並的、水、面、標、泰射艦、通、報、先、水、面、標
 の、線、若、く、は、標、的、網、の、通、過、シ、ル、時、刻、其、の、偏、斜、又、は、水、面、の、見、え、ん
 尤、右、概、果、位、置、ヲ、信、号、シ、次、ニ、編、隊、ヲ、換、シ、ん、後、尤、右、及、深、度、又、正、確
 信、号、ヲ、シ、テ、モ、ト、ス

十七 奇號ハ信號ヲた如ク規定ス

C 旗又號旗偏差右某米突 (百耗單位)
三ノ右

D 旗又號旗偏差左某米突 (左 右)

號旗 深度某米突 (左 右)

例ハCニ。ハ偏差右ニ米ヲ示シ二月ハ深度ニ米三百五ヲ示ス

例ハCニ。ハ偏差右ニ米ヲ示シ二月ハ深度ニ米三百五ヲ示ス

行中、水、面、標、ヲ、並、視、シ、又、深、度、標、ヲ、換、シ、ん、後、應、ズ、ル、位、置、置、置、シ、テ、自、ら、
 深、度、標、ヲ、示、ス

0873

0872

0871

0870

第三 監的

其ノ中ニ常設ノ標準ヲ植立シ監的ニ安之トナシ

大 船痕ヲ查シ毎命之リ行ヒ其船痕ハ祭射船及祭射船
ヲ記シテ布定祭射船般之レヲ作り渡シ置キトスヲ附シ置キ且ツ其
船痕ノ修補シ置キトス

監的又潮流ノ方向及速カラ測定シ之ヲ旗竿ニ掲揚スレ誠信號ヲ潮流ノ変化スル迄ヲ其依持統シ置キ
トス但シ祭射船巡祭射船路ノ前ニ降下スルモノ而シテ要スル方位信號端舟信號書ノ用ヒ
其速カラ一分間ノ移動量ヲ百兆單位ヲ表スルモノ

例ハコト方位零一ノ北ニ米突ヲ示スカ如シ

行キハ此處ノ並視トスル波キハ此處ニ在リ置キ浮標ノ用意
シ置キトス

0873 0872 0871 0870

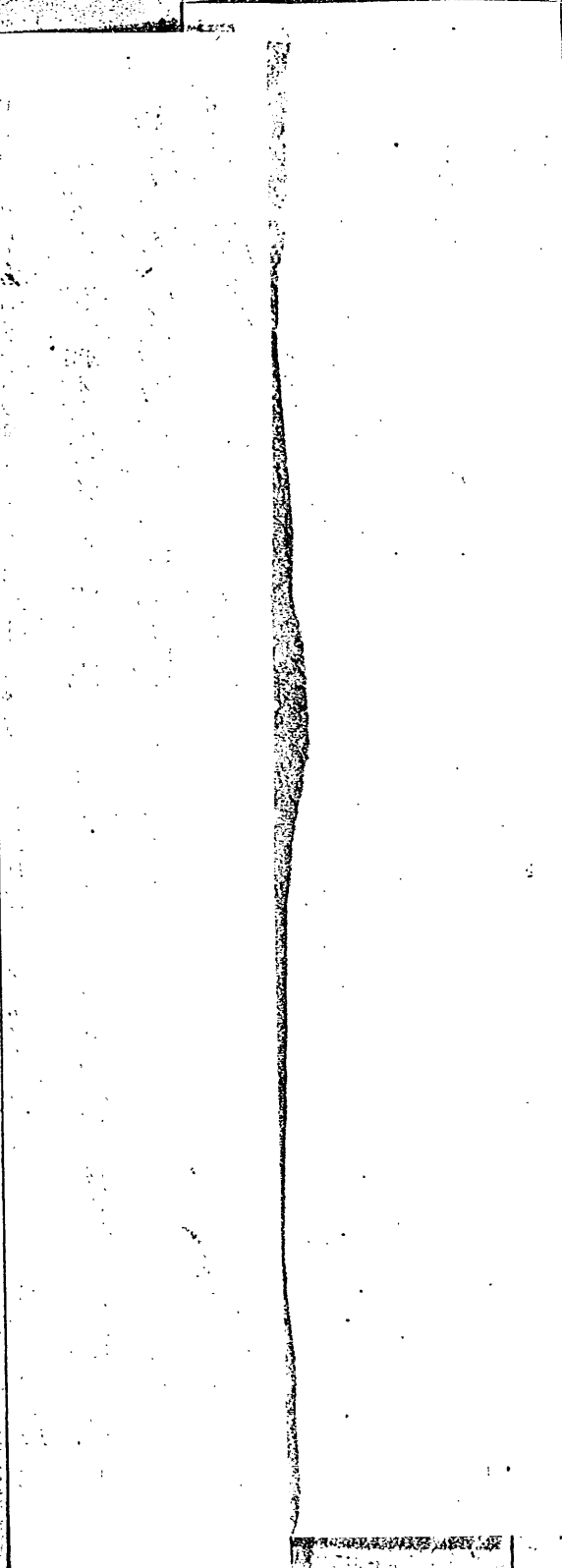
第三 監視

其中常設照準用標竿ヲ植テ監視ノ要候之ヲ存シ

第四 採收 監視

十九 採收艇及艇員ハ各艇艇所屬隊ニシテ使用シ標的ノ中央背後約五
 十米突ハ位置ニテ魚雷採收ニ從事スルモノトス

二十 監視艇トシテ敷設隊ヨリハ監視一隻又ハ兼テ監視トシテ
 右艇射隊ヨリ人々ヲ乗レバ但シテ射隊前適當ノ位置ヨリ魚雷進
 行中ハ状態ヲ監視シ又沈没時ハ場合ニ應ジテ位置ヲ浮標ヲ用意
 シ置キトス



0873 0872 0871 0870

第五 通信規約

一 駆逐隊 艇隊 放範 草字未ニ據ル、外左ノ規約 信辨ヲ特定ス

零 旗 試範

方位 旗 牽射中止休絶

不 管 旗 危險其他ノ妨害ニヨリ一時牽射中止

不 信 旗 本日牽射終結

丁 旗ト共ニ辨旗 前部(右舷)牽射機ノ第一、二、三、四

キ 旗ト共ニ辨旗 後部(左舷)牽射機ノ第一、二、三、四

E 旗 曳雷沈没(汽笛連吹)

疑 問 旗 曳雷踪跡不明

右 旗 方位旗連揚 本日牽射ヲ吸延ス(本艦号ハ主計室ニ報告ス)

第六 報告

一 運動並 曳雷委員ハ四吉年 規定牽射實施記録ニ通リ牽射終了

後速ニ提出ス(實施記録用紙 副官部ニ必要ノ数量ヲ左舷艇ニ配布ス)

二 牽射報告第一表ハ牽射艇艇ノ管劍委員ニ供送ス而シテ先任管

劍委員ハ成績表ヲ調製スレテ曳雷牽射規則第三十三条ニ依リ同

令ニ依リ

三 司令部曳雷牽射規則ニ規定レシ報告ヲ牽射終了後一週間以内

提出ス

五 本隊射に従事シタル委員及射隊艦、將校同相當官ハ射隊ニ
関スル詳細ナル意見(有無共)ヲ射隊終了後十日以内ノ順序ノ経テ提出
ス

第七 雜件

十六 艦長若クハ敷設艦指揮ハ射隊准備(敵艦)トキハ其旨ヲ先任委員
報告スルモノトス

十七 射隊艦ハ航路浮標ノ方ニ入りテ射隊スハカラス

十八 射隊中ハ艦隊内ノ嚴密靜肅ヲ守リ又關係諸員ノ外管側ニ寄ルハカラス

十九 射隊艦ニ於テハ兵員ノ服装ハ軍事業服トス

別表第(八)号

第四日	第三日	第二日	第一日	日射	射
一 駆逐艦	二 駆逐艦	一 敷設艦	二 敷設艦	艦	射
佐 大 田 永				艦	射
佐中 田 和		佐中 本 坂		艦	射
佐 中 関 機 立 足				艦	射
尉大 関 機 田 布		尉大 関 機 野 浦		艦	射
右	左	右	左	艦	射
右	左	右	左	艦	射
右	左	右	左	艦	射
右	左	右	左	艦	射
右	左	右	左	艦	射
右	左	右	左	艦	射

一 標的網、長張交換、収容並、射開始後、速に射場、敷設艦、
 二 射隊、要る、標的網、及、所屬、射、
 三 敷設艦、射、
 四 水、及、其、要、事、
 五 敷設艦、及、其、要、事、
 六 敷設艦、及、其、要、事、
 七 敷設艦、及、其、要、事、
 八 敷設艦、及、其、要、事、
 九 敷設艦、及、其、要、事、
 十 敷設艦、及、其、要、事、

一 敷設艦、及、其、要、事、
 二 敷設艦、及、其、要、事、
 三 敷設艦、及、其、要、事、
 四 敷設艦、及、其、要、事、
 五 敷設艦、及、其、要、事、
 六 敷設艦、及、其、要、事、
 七 敷設艦、及、其、要、事、
 八 敷設艦、及、其、要、事、
 九 敷設艦、及、其、要、事、
 十 敷設艦、及、其、要、事、

一 敷設艦、及、其、要、事、
 二 敷設艦、及、其、要、事、
 三 敷設艦、及、其、要、事、
 四 敷設艦、及、其、要、事、
 五 敷設艦、及、其、要、事、
 六 敷設艦、及、其、要、事、
 七 敷設艦、及、其、要、事、
 八 敷設艦、及、其、要、事、
 九 敷設艦、及、其、要、事、
 十 敷設艦、及、其、要、事、

備考

各兵舎隊長調整年月日欄ニ捺印スルキトス
証明ナル者、駆逐艦ニアリテ公由該艦長敷設艇ニテハ
水雷及縦銃機、自己發射機負、調整シタルモノコトヲ

縦銃機制式番號

魚雷制式年月日

驅逐艦名(敷設隊名)

種	類	發射機		氏名	既往成績	得点	優等	優等
		証狀	等級					
照準手	一番							
	二番							
	三番							
	四番							
	五番							
	六番							
壓機	機負							

發射機負及圧機機負者席者

四轉數
力ニ對シ
規正途
發射機

四十四年東形水雷檢定發射要表

魚雷艇定率射ニ就キ所見

海軍大臣 鈴木八郎藏

一 雷速 換定ニ就テ

魚雷艇ノ換定率射ハ率射管員ノ技能ヲ換定スルノ目的ニテ、
 有偏流ニ在リテハ勿論、
 艦艇長或ハ指揮將校ノ伎倆ヲ之ニ加入スルハ當ラズ、
 指揮者任備ノ換定率射ハ別ニ試験、
 速ニ於テ減速トシテ率射機受ニ課スヘキモノハ其ノ與テ、
 力ニ先ズレテ誤速ナラハカラス之レヲ詳言スルハ横能機ノ不
 リ或ハ縱能機調整ノ不完全ナルコト魚雷艇上下或ハ左右ノ
 フ面カレメタル為メ直進ノモノニ比シテ速力ニ変化ヲ與フ
 ハ魚雷艇調整正後部ニ終末ニ表性面等ノ諸調整ガ率射ノ
 度異ナル場合其航跡回シカカハ速力ニ甚大起スヘキ
 是レナリ、
 練ニ因ルモノナルヲ以テ換定率射ニ於テ減速スルヲ得バ
 換定率射ニ附加スヘキ誤速ニ量ハ定率諸他ノノ
 ハカラス

而シテ雷速ノ測定ハ射距離及駛走秒時ノ二面要素ノ絶
 的正確ヲ得ルメテ之レカ確定ヲ期スルヲ得レ、
 然ルニ之レヲ本年

ノ換定索針及カ官力 駆逐艦乗但中ノ経験ニ顧ミルニ其ノ一
 者^{船中の}近傍ニテシムルハ至難ノモノニシテ之レカ原因ヲ列挙スルハ

(1) 艦ノ索針速力中ニ於ケル測距器ノ距離測定ハ振動ヨリ測

距離難シト又器差視差等ノ總計的比無ク期スル能ハズ

(2) 天分儀及底線一標的ニ百米ノフマールヲ附シテ底線約トスル

可ナリニヨリ測角ヲ以テ算出上ヨリ距離ヲ決定セントスルモ亦可能ナ

如器差及視差ノ誤測量ニキリ期スル能ハザル

例ハハ干米射距離ニ於テ百米底線ヲ用ユルトスルモ底線約ニ

米ノ誤差アレハ射距離約ニ二米ノ誤差ヲ生スヘク又測角四分

ノ誤差見エ射距離約ニ十米ノ誤差ヲ生スルモ是レ

而モ測角上四分ノ底線一米位ノ誤差ハ器差視差

等々其他ノ原因ヨリ比無ク期スル得ス以テ其原因

的タラサルヲ知ルベシ

(3) 浮標ヲ以テ測距ノ標準トスルニ潮流風向等ヨリ測定

ヲ期スル能ハザル

浮標ヲ設置スルニヨリ測距器トスルモ潮流風向等ノ如

キ外力ニテ浮標位置ヲ移動セシメンカ水深十三ヨリ位置

ニ於テハ五スノ候針スラアルニ約ニ五ヤリノ距離ノ変化ヲ

来ス可レ也 浮標位置ニシテ地ニアルシカモ亦原因ト

ナシキナリニ測距器ノ測定ハ止ムヲ得ザルナリトナル

四 野上秘傳指手ニ於テ信考方法ノ缺點ヨリ生ズル誤差アルヲ。雷

ノ水底ニ魚雷ノ標的線通過ヲ指示スル為ニ魚雷ノ通リ道ノ海水

清浄ノ所トシテ人ノ目上ヨリ誤差ヲ得テ又海水汚濁ナリトスル

共ニ魚雷ノ距離ニ釣糸ヲ附シテ又持セシムルハ誤差ノ原因ト

ナリトシテ起倒ニヨリ一般ノ方法トスルニ實際共ニ誤差ノ原因ト

スルハ止テ得ザルヲトシテ而モ一秒ノ誤差ハ前記ノ距離内ニ於テ

誤差ノ誤差ヲ惹起スルヲ思ハバ亦絶対的正確ヲ期シ難キヲ認

前記ノ如ク距離内及駛走時ハ絶対的正確ヲ期シ難キヲ以テ魚雷

有ノ速力ヲ測定スルニ其航程ニテ及令直進シ難キ場合アリト

ノミテハ信頼スルヲ難ク十教團ノ平均ニ由ラザル可カラザル

是ヲ以テ魚雷或ハ縱能界而調整上ニ因リ減速即チ發射機

具ヨリ生ズル誤差ニ對シテ如キ微少ナル誤差ハ實際ニ測定スル

ナレバ難キ事トシテ雷速ノ發射機ニ對シテ誤差ノ原因トシテ

ノ枝柄未熟ニヨリ其決定量ヲ設ル場合ニ於テモ其發射機

ヲ操ハルルニヨリ聊カ決定發射ノ主之意ニ副ハザルヤノ感

果テテ雷速ハ雷速ノ決定發射機ノ慮有ルニサレバ可ト思

三 決定發射機ノ誤差ニ對シテ凡ソ魚雷ノ原動機ニ

依正量ヲ加減シテ方位盤ヲ以テ縱能機ノ誤差ヲ補フ如キハ

雷速ノ誤差ニ對シテ凡ソ魚雷ノ原動機ニ依正量ヲ加減シテ

方位盤ヲ以テ縱能機ノ誤差ヲ補フ如キハ雷速ノ誤差ニ對シ

前試射ニ由テコトヲ詳シクシテ其施行期日ニ於テ初射射ヲシルハ必要アリト認ム

從テ機足奈射ハ常備員ニ由テ一個宛射射セルコト可クナリト考ヘン

又本奈射ニ重シク間施行セラルルモ兎も艦水雷艇ノ機足射距離ノ

ノ如キ短距離ニ於テハ奈射ハ夜中ニモコト勿論ナリ又テ從前ノ意圖奈射

射ヲ行ハシメ在間奈射トセハ一層留意切心ヘク又テ夜中奈射ニ射スル者自ノ

改正進歩ノ一助トナシテ從前未ダ在間奈射ノ結果ニ方位鏡ニ對準桿等

ノ一層精細ニ改北夜中ニモアルコト以テ夜中自女員ノ改良ハ自

之得ニキコトナリ

自女員ノ發射機ニ就テ

自女員ノ發射機ノ自女員ハ其駛至ニ終突ハ於テ敵ニ衝撃スルコトアルモ確

實ニ奈射火ヲ得ルコト勿論ナリ得ルコトニテハ射機ノ發射力ハ五節ナリハ奈

射火ヲ發射スルコト以テ發射機ノ其程度ニ降下セルコト又チヤ不コトナリ

ナリ不奈射ノ構造ハ射機ノ可及的其構造ヲ改良スルコトハ何ヨリ之ヲ得ルヤ

生スルハ明ヤナリ 斯ノ如キ状態ニ於テハ測定ノ速度ハ前記距離距離ニ
 於テハフットヤハ四半ニテ米ノミノ平均速度ニテ九百米或ハ八百米ニ於テハ其
 速度ニ差無シアルヲ察見スレバ吾人カ加熱式ノ取扱ニ於テ尙初
 其沈没ヲ慮スルコトニシテ世氣氣重ヲ減シ珠氣重ヲ二十四外ニ係タシメンカ
 多ク重ノ信賴ニ係ルニテテ珠氣重ヲ約調和氣重ノ程度ニ至
 ラシメン結晶重ノ速度ニ約ハ一厘ノ増速ヲ免ルニ至レリ
 之レヲ以テ白丸レハ或ル程度ニ神和重ノ彈子ヲ弛ルニ珠氣重ヲ調和
 氣重ノ程度ニ係有シ多ク重ノ等々未シテ在田スルハ最モ此重ニテ氣重
 室内ノ空氣ノ全部ヲ消耗シテ珠氣重ヲ極大ニシタルカ如キ手段却
 テ一重速等者ヲ失ヒ動的係數ニ際シ不命中ノ因ヲナスヘシ以上記米ス
 ル所モハ明瞭ナルトニテ特記スルコトニ非ルニ爲本年度換定係數
 ニ係リ珠氣重ニ較モ思ハルモノヲ免ルニ至スル所ナリ

換定泰射ニ関スル所見

海軍中佐坂本之重國

本年度換定泰射ニ関スル所見
意ハ理想トシテハ至極其良成スル所ナレドモ之レカ海軍施設上ノ困難ナル
ハト云フニ非ス即チ

④ 泰射時ニ於テハ實際距離測定ノ困難ナルコト
⑤ 奥雷ノ標的ニ過テ報スル信號確實瞬速ナラサルハ秒時差
ヲ生スルコト

⑥ 奥雷進歩ヨリ生スル泡法ノ潮ニヨリテ時々多少ノ変化見ユ
⑦ 右泡法ノ浮上スルヲ一未突一秒トシテ計算スルモノ不正確ナリ

⑧ 等テテ報テ考ルニ雷速ノ誤測ヲ泰射機受メノ伎倆ニ制スル所
ナレドモ非ラサルカ以テ奥雷進歩行々其蛇行ニ非スル減衰法ヲ設

ケ雷速ニ測定スルニ在リテハ軍港要港等々其附近ニ隊メ正確ナル
射場ヲ常設シ基本部隊ハ教育年度ニ於テ必ず正確ニ之ヲ測定

報告セサルヘカラサルコトニ規定セラレントシテ至ルム今更ニ隊
員ハ後日詳細陳述スル所アリントス

奥雷換定泰射ニ関スル所見

海軍大尉 奥井 長

模定系 船三三生セノ魚雪及然能機ノ故障概要

<p>模定系及然能機ノ故障</p>	<p>故障ノ箇所 及年月日</p>	<p>修理概要</p>	<p>注意 事項</p>
<p>吳ハ一〇八(1)</p>	<p>推進系ノ故障 車軸白金取換</p>	<p>推進車ニ燒キヤリナス 車軸白金取換</p>	<p>修理後ノ状況 良好</p>
<p>吳ハ三六(1) (2)</p>	<p>第四回ノ修修 ニ於テ浮室下部 ニ著シク四所ノ生カ 以テ修理中ノ修修 ノ地ニ曲腕重衣 金ノ取換</p>	<p>大連度修理工場ニテ浮室の面ニ シテ鉄釘ヲ張リ之ニ対スル重量 量ハ海軍軍用ニ準テ取除キタリ 修理ヲ行フ</p>	<p>昨年十二月補修 トシテ修修 セルニ於テ修理後 ノ結果概テ良好</p>
<p>吳ハ四二</p>	<p>横能機ノ不段 曲腕重衣取換 推進系ノ異常 浮室ノ修修 カサノ生カ</p>	<p>大口修理ヲ行フ</p>	<p>修理後ノ状況良好</p>
<p>吳ハ四四(1)</p>	<p>第四回ノ修修 破碎輪心ノ修修 山ノ修修</p>	<p>高田工場ニテ ノ四山部ヲ掘リ念又</p>	<p>本年六月年未故障 及修修 及試修</p>

0885

全年六月下旬
第三回ノ漏氣

	五八一 四 汽室ノ漏洩ニ由 良	右修理完了試験終了ノ上工場ニ到着 有ニ試験セルニ右ノ漏洩ニ由ルニ其後 同ニテ漏洩ヲ始メテ修理ニ着手スル 後モ其カスル新製スルニ非ズルハ到底 フ防止スルコト出来サルトテ横ニ工 ノ修理ニ付照会セルニ新製スルニハ ストノコトニヨリ速ニ納付スルコトニ 奈停 取換 ハノ中重要ト思ハレ氏者工場ニ 同ナリ為ニ始メテガクガクガクガク ナット及ボルト等取付 螺釘ノ 締め加減ニヨリコトニセリ 受入後後取換セルニハ十五分 気者セルニ付 螺釘ヲ行フコトニ	三 七 六 一 三 七 八 三 三 八 三 二 二 七 七 七	完全ト稱スルヲ得ヌ五回ノ由 四回迄モ修理工 止 軸 止 軸 止 軸 止 軸	修理完了後ノ上受 後モ其カスル新製スルニ非ズルハ到底 修理ニ付照会セルニ新製スルニハ ストノコトニヨリ速ニ納付スルコトニ 取換セルニハ十五分 螺釘ヲ行フコトニ
--	-----------------------	--	--	--	--

縦船ノ修理請示教
 本船ノ縦船ノ何れ

三 七 六 一	四	止 軸
三 七 八 三	四	止 軸
三 八 三 二	四	止 軸
二 七 七 七	四	止 軸

右ノ如ク莫雷縦船ノ故障ヲ生レ修理スルノ止ムヲ得サルニ至リテ
 キニ及ヒ中ニ莫雷ヲテ四回納付セルコトヲ得サルニ至リテ
 修理ヲ横須賀カスルニ至リテ修理ニ付照会セルニ新製スルニハ
 ストノコトニヨリ速ニ納付スルコトニ

若し可シルニ望リタルモノアリ又ハ修理完成ノ上横俵船隻ノ般ヨリ支致セル魚取
 ノ大部分ハ蓄室漏洩ノ如キ大修理ヲ要スルノ度ルアリタルタメ一時ハ投定
 祭射ニ臨ム可シサルヤノ此ノ境ニ當リシユトアリタリ右ノ状況ヨリ考ルルニ
 故障ハ皆テ照準手及祭射機ノ異ノ流チノ度ト認ムヘキテハモリ或ハ修
 理ノ不全又多年使用ノ結果老朽セルヨリ来リタルモノニシテ
 是レ因リ投定祭射ニ参加スルコト出来サリシラハ照準手祭射機ノ異
 ノ不準ニ至リタルハアラサル可シ是レ聊カ投定祭射ノ御主トモ
 モハアサカナルカト思考ス依テ

一 実施規程第9条ノ改正ヲ必要ト認ム
 実施規程第9条ニ「魚取及縦船機ハ祭射機毎三何(敷設機ニ
 在リハ一何)ヲ使用シタルトモ其意タルヤ其艦艇使用中ノ凡
 テノ兵器ハ常時準備シ置キ何時タリトモ突戦ニ應ズル準備
 アラサル可ラサルノ誠心ヲ奉揮セラルルハ取モ必西女ノコトモ祭射機
 異ノ粗漏ニ至ラズル故障ニテラスレテ魚取及縦船機ノ準備
 出来セル為メ投定祭射ニ應ズルヘカサルハ聊カ不念懸ト認ム依テ
 「魚取及縦船機ハ祭射機毎三何(敷設機ニ在リハ一何)
 ヲ使用スルヲ原則トス若シ止ラ得ザル理由(祭射機ノ取扱ノ粗
 漏ヨリ来リタルモノハ別ニ別機又ハ故障)ニテ三何ヲ使用スルコト能ハサルヤハ
 何ヲ使用スルコトヲ得
 但シ其場合ニ在テハ次ノ減点法ヲ行フ

ト改正レ之カ幾分ノ減衰法ヲ採用セハ可ナラント思考ス而シテ之カ減衰大
ノ標準ハ全長ノ百分ニ乃至三位ニテ可ナラン

二 雷速ニ対シテ減衰法ノ改正件

自矢ノ戦闘ニテ雷速ノ必要ナルハ言ヲ俟タズル知ルモ照準手ノ
伎倆如何ヨリ左右セラレ所タルヤナリ大ナル事ヲ指揮者ノ考算スル
竹馬ノ然レモ決定祭射ニ於テ縦横面進行ヲ附與スル莫教ノ四分ノ
ルニ十矣ハ聊カニ事キニ失スルノ感アリ
亦未タ雷速決定ナルハ非テ中ニ困難ナル事業ニシテ

射距離

測距器

笠的及旗ノ測距方

流刺及内筒ヨリ標的網及航路浮標ノ位置

筆皆ノ雷速決定ニ大ナル影響及ボスモノニテ射距離ニ於テ才

米内外秒時ニ於テ一秋内外ノ誤差ハ免カシラザルモノト思考ス

又實施規程ヲシテ素ノ備考ニシテ雷速測距器ハ祭射開始

前祭射艦艇ノ長ヨリ提出シタル各儀用自雷ノ指定速度カト毎祭

射後換定速度ノ長ヨリ提出シタル各儀用自雷ノ指定速度カト比較

決定スルモノトス但シ雷速測定法ハ莫大ナル祭射教範ヲ三部

戸二編第四節第四項ニ依ルモノトス。トアリテ同故。然ルモ百重一魚雷
 標的通過ノ時機ハ熟練ヲ重スルヲサレハ難確ニシテ認メ難レ故。同
 時ニ泡法ノ標的線ヲ通過シタル瞬間ヲ認メシニ依リテ實際魚雷ノ通過
 シタル時刻ヲ算出シタ多照ニ供センコトヲ云ハス
 善ク通シ米深度ノモノニ在リテハ魚雷通過後約三秒ニシテ泡法水面
 ニ現出レ誤深度四割ノ増減毎秒約一割ノ増減アルモノト見テ可ナリト
 又ハ約百四十人ニヨリ魚雷速度力ハ海水密度ノ濃淡ヲ察射法ノ巧拙
 魚雷運動ノ男女及偏斜等ヲヨリ正確ニ算スルモノト云ハレトアリ
 テ實ニ正確ナル魚雷速ヲ出スル中々困難ナリ殊ニ魚雷四十七ノ算ハ又
 面ヲ解致スル片ハ魚雷標的通過ノトキヲ認識スルヲ正當ト認
 ムル是レ熟練ヲ重スルコトヲサレハ正確ヲ期シ難キニヨリ泡法ノ
 秋時ヲ換算センカ一米ニ付一秒ノ増減ニテ可ナリト然ルニ本艦
 ニハ本年ノ察射中施セス身帯長クシテ並的及採取量較多ニ
 従事セシメ換定察射前ノ試察射ニテ次ノ結果ヲ得タリ
 魚雷ノ頭部カ筒ヲ通過セシト認メタル片ヨリ泡法ノ水面出テ
 シトキノ深度及秋時ノ關係ニ付キ

標的の網通過ニ付 深度	魚雷標的の網 通過シタル片ノ 秋時	一米ニ付換 算セシ片ノ差 一秒	深度一米ニ付 換算セシ片ノ差 一秒	備 考
四米二百	六秒	八秒	一秒四三	右一米

三米百	四秒五	一秒四	一秒三九	九十五米
四米百	五秒五	一秒四	一秒三四	〇命中
平均三米八百	五秒五	一秒五	一秒三六	

右ノ結果ヲ得たり者曰波靜カレテ浮力正確ニ測定シ得たり
 リト云フ之依テ之ヲ見レハ米ニ對スル時ハ約三ハトナリ又ノ実験
 ハ時期ヲ得たりシ為メ四單ニ三田ノミナリシコトアリ又分正確ナルトハ
 認メ難キモ放物軌ニ依ルニトハ大ニ差アリ又其後細ノキ標的ニ向
 ヒ射撃シ奥雷頭部標的船通過ノヤリ泡沫通過ノ時ニ一秋
 時ヲ測リ浮度ニ於スル考トセシ調整浮度ハ凡テ四米半ニニテ
 五秒五四秒 五秒ト測定タリ依テハニ一由大雷ハ淡ク行クモノト
 決定セリ雷曰ハ波高ノ脚ヲ誤測アリシモノトハ認定スルナリ
 右ノ実験ヨリ見ルヤハ一米一秋ノ換算ハ亦得たりニハサレテ
 〇ナリ若シ果シテ前ノ換算ヲ以テ信ニ近キモノトセンカ平均水深
 度三米八百ニテ五秒三三、其差甚大ニ一秋五三トナリ又一秋五
 ニヲ射程八百ニテ五秒一八、其差亦大ニ一秋五三トナリ又一秋五
 ニ十四節三カトナリ其差〇、六一節トナリヲ、七五節ノ換算ハ
 スルニハ極ク〇、一四ノミニ依テ幾多ノ正確ナル実験ノ上雷速測
 定法決定ヲラシメトナリトス

斯ノ如ク換算系能ハズン雷速決定ニハ多クノ誤測ノ原因ヤ

アルハ本年度ノ減員ハ苛酷ナリト認め減員ハ二十員ハ半減レテ員ト
セハ可ナランカ

三 奉命後ノ残業且重、自信持キリレ中ノ減員法ヲ設クル必要アリト
認めム

本年ニ度核定奉命ハ秋葉ニ社レ何等ノ規定ナカリレカ秋葉業量
ノ多寡亦、自信ノ有無ハ決戦ニ大ナル影響ヲナスノミナラス、
雷取扱ノ如何ニヨリ左右セラルモノナレハ秋葉ニ社レ各員矣宛ノ減員
ヲ附具スルヲ至極ト認めム

四 常設奉命場ノ設置ヲ望ム

西田連決定上至大ノ必要ヲ認ム
五 改良方位 般般ノ不正確ナルハ今更改正言フ、必要ナレ聞ク目下

在来ノ方位 般般ノ不正確ナルハ今更改正言フ、必要ナレ聞ク目下
田形方位 般般ノ不正確ナルハ今更改正言フ、必要ナレ聞ク目下
般般ニ供用セルトコト本般般ニ至極ト供用アリト認ム

0392

海軍中尉 三矢五郎

本年度魚雷投定泰射ニ付テ意見

魚雷速力誤差ニ對スル減速ノ免大ニスル可トス
 理由、教練泰射ニモ若クハ投定泰射ニモ現今魚雷
 速力ノ測定ハ正確ヲ期シ難キハ百人ノ誤ルル處ニシテ射場設備ノ
 完不完及測定法ノ巧拙測器ノ精粗等ニヨリ差ラ生スルキハ勿論
 ナシ大分儀武代測距離ノ如キ誤差人差アリ標的及航路浮標
 等モ風浪潮流等々多ク中ニ若干ノ差位アルヘク又艦ノ運動法及
 グロノメーターノ押レ方又ハ魚雷標的通過ノ時機表示ノ如何ハ泰射
 毎ニ若干ノ誤差生スルハ是等ノ誤差力相連トスルハ是等ノ
 テ算出セラレタル魚雷速力ハ度外視スルヘカサルモ是等ノ誤差ハ明
 白ニシテ照準手ノ伎倆投定上公平ヲ缺クコトアルヘク
 方位變ノ修正ニハ制限ヲ設クル必由アリ
 理由、魚雷横面進行路ノ良否ハ主トシテ縱舵機ノ動作ノ
 正否ニ関シテ照準手ノ伎倆投定ニ於テハ縱舵機調整法ノ巧拙
 ハ其ノ最大西女生系ナリトスルモ又言ニテハ是等ノ誤差ハ
 横舵機所アリ泰射ノ結果魚雷ハ若干偏斜スルモ其狀況ニヨリテ
 之ヲ方位變ニヨリ修正スルヲ得レシテ投定泰射ニ望ムルニテ固
 泰射ノ行ツカ又ハ投定泰射ノ第一回ノ結果ヲ見テ次回ノ修正ヲ

0393

三

施スモ泰船規則及實施規程ニ檢 蝕スルヲキカレバ在レ無準平ノ
伎倆ニ補助ヲ與フルヲミレテ 模定泰船ノ主目的ニ致セザルモノニテ之
ニ関シ悉ク制限ヲ設クルノ使而女兒所 謂ナリ故ニ來年年度ヨリハ備
倚遠度潮流及泰船管ノ固有偏斜等ノ修正ノ外方位盤
ニテ修正スルヲ得ザルコトニ規定シ泰船管ノ固有偏斜修正量ハ模
定泰船前ニ豫メ委員ニ届ケ置キ以後変更スルヲ得ザル標規定ス
ル可ナリト思考ス

方位盤ノ改良ニ就キ


現今方位盤ノ缺點大ニ多キハ各人ノ認ルル如ク一日モ早ク良器ノ
供給セラレシコトヲ望ムマ切ナリ本 艦ニ於テハ應急的処置トテ次
ノ如キ方法ヲ施セリ

(1) 副尺モ夜間照ヲ設ケルコト

雷速杆外側ニ副尺モ夜間照ヲ設ケルコト
ニセリ

(2) 形前部接合部上面ニ標尺ヲ降レシムコト

雷速杆ハ正確ニ整ヘラレタルモ方位盤ノ遊ヒ又ハ艦ノ振動等ヨリテ準
準信力果テ所要ノ角度ヲ保持スルルヤ否ヤハ疑問ナリ故ニ此
形前部接合部上面ニ軸線ト合致スル一其至大ヲ定メ是莫ト方
位盤中心迄ノ巨雷ヲ底辺トシ方位盤ノ十五分、十分、五分、二分
ノ度、一度十五分、一度三十分、一度四十五分、二度等ニ計スル四ノ長サ

ヲ算出シ之ヨリ其全長ノ尤右ニ標尺ノ各奉射毎ニ照準線ヲ
 接セリ靜的奉射ニ付テハ確ニ利益アリト信ス
 (イ) 敵針路ヲ正確ニ救正スル爲メ度成田野敵ヲ附セリ
 (ロ) 照準トキハ照門ニハ  形ノモヲ用テ照星ニハ針ヲ植テス

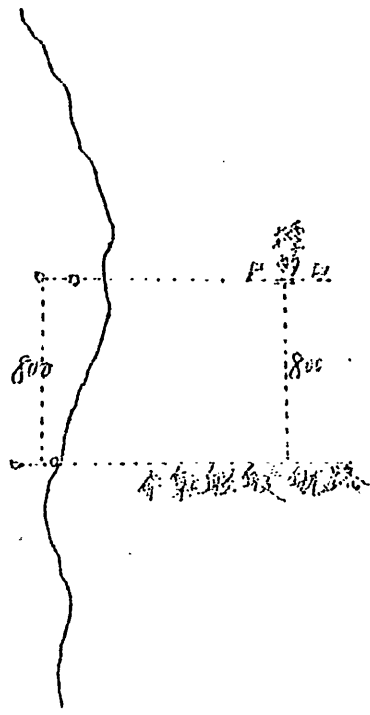
0895

海軍大臣朝田外次郎
核定射撃之注意

一 射程ノ測方ニ就テ

自天雷ノ実速カヲ核定スルハ最モ精確ナル射程ヲ要スルハ端ヲ俟タス
而シテ通常射程ヲ測ルハ次ノ二法ヲ用ユ即チ一ハ「メートル」ライ
ヲ用ヒテ他ハ「測距離器」依ルルニテ今此二法ニ付テ考ルルニ
前者ハ如何ニ精確ナル長さ有ラズル者多クテ凡テ風潮ノ為メ幾分ノ
誤差ハ到底免ル能ハス又後者ハ如何ニ精確ナル測距離器ヲ用ヒ
距離ニ対スル幾分ノ固有誤差アリテ又測手ニ依ル「パーセント」
モ亦差開ニ附ス「カサ」モアリ殊ニ「風」ニ屬シテ三ツ測距離器在
テハ其誤差一層甚クシキモ「アリ」故ニ此二法ヨリ射程ヲ定ムルハ未ダ「完
全ナル」測法トハシ難レ又「仮令」ニ精確ニ射程ヲ測リ得トスルモ
標準ナル「海」深ヨリ幾分ノ余裕ヲ存スルヲ以テ「潮」ノ干満或ハ「風」方
ヨリ「五米」外ノ誤差ハ必ラス生ズルモノト見テ大差ナキ「ニ」テ「航路
浮標」係ヲ「航」スルニ「誤」浮標ニ「離」接スルカ「如」ク「艦」艇ヲ「運」
レテ「普通」航路浮標ト「離」艦艇ト「距離」ハ不確ナル「目」測「ニ」テ「可」
ス而シテ之「畢」誤差ノ「代」數的「和」ハ「甚」射撃ニ「対」シテ「者」果「ス」テ「程」
「大」ナルモノ「ニ」テ「ハ」レ「然」ルニ「テ」射撃ハ「志」果「ニ」テ「十」米「実」ノ「誤」差「アル」モノト「レ」

魚雷ノ馳走時圖ヲ一分スルハ其速力ニ約三五節ノ差由テ生ズルニ
 至ル故ニ射程ハ最モ正確ナル方法ニヨリテ測定セザルヘカラス而シ海上ニ
 於テハ以上ノ如ク到底精確ナル射程ヲ測ルコト能ハズルヲ以テ之ヲ陸上ニ於
 テナサレハカラス即陸上ニ於テ該射程ニ於テ距離ヲ有スルカ如クハピツケ
 トシテ植立レ標的ハ一方ノ四ツケツト一線上ニテ設置レテ射程艦般ハ他
 一方ノ四ツケツト一線ニ見ルカ如ク艦般ヲ運用スレハ既ニ精確ナル射
 程ヲ得シト信ス之レ核定奈射ノ際ニハ必要ナキノニテ又教練奈
 射等亦ニ於テ速度カヲ計測スルニ必要アリテ之カ常ニ設
 けニ由テモト信ス



魚雷横面進行状態ノ不良ニ付テ
 魚雷横面進行ノ不良ニ付テ蛇行ヲナスカ如キハ多クハ縦航機調整不

0897

良ニ原因スルニテリ然レモ枝定祭射ニ於テ往々蛇行レツク運ヨク命中スルコト
アリ之レ甚ク不確ナル命中ニシテ時ヨリテハ命中ヨリタルヤ則チ即
チ祭射機受ノ枝柄充分ナラザルヲ証スルモノニシテ縦令尤右偏射ナク
命スルコトアルモ之ニ至大ヲ附共スルハ稍々横定祭射ノ至者ニ及スルヲ以テ
幾分ノ減失法ヲ設クルノ必要アルモト認め而シテ其蛇行スルヤ否ヤ
ヲ認ムルニ祭射艇艇祭射艇大ノ外方ニ在テ其航路ヲ導ケ缺欠ニ艇
艇ヲ救済留レ置カハ之ヲ免ルニ左程困難ナルヘト信ス

三 奥面縦面進行状態ノ不良及其浮度ニ付テ

奥面縦面進行状態ノ不良モ亦主トシテ祭射機受ノ奥面ノ
調整ノ未熟ニ依ルモノニシテ其命中精度ニ大影響ヲ及ボスハ論
ヲ俟タズ斯ノ如キ奥面ノ時ニ或ハ規定浮度ニ命中スルコト
際ハ不確實ナルヲアルヲ免レス故ニ縦面進行ノ不良モ亦横面
進行ノ不良ナルト同シク或モ減失法ヲ設クルノ必要アルカ如シ而シテ
浮度計ヲ用ユルハ大要其状態ヲ知ルコトヲ得ハシ
現今ノ規程ニテハ浮度ハ三米向大至六米向トアルヲ以テ魚突留ノ調
整不良ニシテ其浮度ハ様ニ浅キトキ或ハ深キトキハ調整浮度ヲ
加減シテ祭射スル規程ノ浮度内ニ命中セシメ得ントスル之レ甚ク多
ク魚ノ手般ニシテ伎倆規定ノ所以ニテラス故ニ実施規程内ニ調整浮度

（四）素突ノ半ヲ以テ高ト信ス一ヲ規定シ之ヲ其全準トシテ減算ノ法ヲ設
ルヲ以テ至多ト信ス即チ尤ノ如シ
規程淨度ヨリ上方ニ素突ノ以内
下方ニ素突ノ以内
其他ハ之ヲ減ス

0339

海軍中尉 佐々木 保定

横空射撃の要法

へ 雷速誤測ニ付スル減兵ハ寛大ニシテ面女ス
 雷速誤測ニ付スル減兵法ハ照準手察射機受ラレテ魚雷縦面
 進行路ニ付スル注意ヲ喚起セラルト今時ニ精確ナル雷速ヲ測得レ
 置ルハ寛大ニ降レ取モ必女ナル事ヲ銘記セレンカクメ誤ケラレ
 モト思考スルニ現時ノ魚雷射撃之時測定法ニアリテハ測距儀ハ
 誤差人差海水ノ温度度及密度ノ変化流潮及波浪ノ影
 響ヲ著キヨリ精確ナル測定ハ殆ント出来ハカラス而シテ是等ノ影
 ニヨリ馳走時測定ノ誤差ニ甚困スル雷速誤差ハ魚雷縦面
 進行路ノ不正ニヨリ生スル雷速誤差ニ比レ極メテ大ナリ良好ニ
 候ニ於テ最良ノ状況ノ下ニ行ヒル数十分ノ察射ニ測得セル雷速
 之時ハ即以由ノ誤差ヲ察見スルコト珍ラシトセス況ンバ横空射
 際ニ測定セル雷速ノ如キ其誤差ナルトセス之ヲ以テ決定雷速ノ
 可否ヲ公カスルハ曲ジテ直シテ稱ルノ憾キ能ハス
 尚茲ニ一言ヲ面女スルキ事ハ現時ノ操兵法ニアリテハ縦面進行正シ
 横面進行不正ナルハ馳走時ハ大ナリ雷速ハ速緩トナリ實際ニ正確ナル
 雷速モ及リテ誤差ヲ著キモトヒテ失兵セルハコトナリ事實ニ於テ誤差ヲ

キ雷達之横面進行不正ノ多ク偏差ニモ良好ナル雷達ノ如ク認メラル、
コトモナレトセズ之レヲ要スルニ雷達設測ニ於テ減尺大ノ取ルニスルハ尤
右偏差ニヨリ既ニ減尺大セラレタル横面進行路ノ正否ヲ再々雷達
ノ変化ニヨリ採尺大スルモノニシテ縦面進行路ニ於テ注意セシテ促進
セラムトモ上ニ及スルモノト謂ハハカラス如之ニ雷達測空ノ巧拙ハ照
海千手祭射核尺ノ技倆ニ関スルモノ多シ然レハ雷達設測
ニ於テ採尺大ハ大ニ寛クニスルヲ至ホ田ト認ム

二 深度ニ於テ採尺法ヲ設クルト

本年度ノ規定ニテハ深度ニ米以上ニ六米以下ニハ其深淺ノ間ハス
全一採尺ヲ附共セリ然レハ其取投者ハ回来附近ニ命中セシ
メント取レ制定深度ヲ回来ニ至ル米トレ更ニ雷達調整ニ際シテ
モ規定ノ寸法ヲ採尺リトシ各尺雷達ノ縦面進行路ニ及
ホス偏差ニ留意スルヲ深クハ是等横面進行路ノ善否
ヲ希フ有様ナリ横面進行路ノ正否ハ之ヲ測ニ認識シ得ルト雖
縦面進行路ノ善否ハ網的ニ触角泡法ノ状態ニ準テ横面
其一班ヲ知り得ルノニテ其全般ハ知レ由レ故ニ横面進行正レ
クシテ測得雷達ニ留意外ノ設測ヲ察見スルハ直ニ之ヲ馳
走味測定ノ設測トシ偏差ニ深淺ニ差ヲ察見スルモ直チ

ニ制定深度ヨリ之ヲ調整シ縦面進行路ノ如何ヲ深ク浅クニ
ニカセサルノ嫌アリ其ノ故ヲ一掃センニハ深度ニ対スル操法ヲ
設クルヲ可トス即チ回来率ノ深度ヲ以テ其基準トシ上下平素
ノ至差ヲ生スル毎ニ操法大抵ヲ設クルヲ至志田ト思考ス

三 牽射機固有魚雷ヲ各一團ツク使用スルコト

準備表操法ノ熟不ヲ操センカクメニハ左一魚雷ヲ二團
使用セルヲ便トスレバ右一魚雷若クハ第一魚雷ヲ牽射前
ニアリテモ操レ得サルアラス而シテ左一魚雷ヲ二團使用セルハ
第一團ノ偏斜量ヲ右二團牽射ニ降レ方位較正ニテ修正
セントスルノ故アリ若クハ斯クノ如クニハ其結果タルヤ照準手牽射
機莫ク技術操定ニハ至ラズ其ノ故ニハ故一魚雷ハ唯一
團使用スル事ニ規定スルヲ可トス

(四)

供覽

海

教育本部

第二部長

軍務局

軍令

艦政本部

機密第一六六號

明治三十四年七月廿五日

竹敷要港部司令官寺垣猪三

海軍大臣男爵齋藤實殿

檢定度射成績表提出件

一四十四年度下各隊魚形の宮檢定度射成績表提出

右提出又

別紙參八葉添

終

會計課

第二班

高

福

水

福

福

水

福

福

海

軍

44. 八月廿五日 軍務局接獲

21-0903 8-31-A 2112

極秘

魚形水雷發射報告 第二表

第十號 檢定發射成績表

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
連	一	掃式水上 十八吋點射	三〇B式 十八吋	一時一分 一秒	參	貳	五	高等科一等 空水管証狀	中村朝一 一等官曹
連	二	掃式水上 十八吋點射	三〇B式 十八吋	一時一分 一秒	參	參	六	普通科一等 空水管証狀	加藤虎之助 二等官曹
霞	三	掃式水上 十八吋點射	三二式 十八吋	一時一分 一秒	參	八	三	高等科一等 空水管証狀	坂本助市 三等官曹
霞	四	掃式水上 十八吋點射	三二式 十八吋	一時一分 一秒	參	九	〇	高等科一等 空水管証狀	栢原晴若 一等官曹
薄雲	五	掃式水上 十八吋點射	三〇式 十八吋	一時一分 一秒	參	九	五	普通科一等 空水管証狀	宮田源四郎 二等官曹
薄雲	六	掃式水上 十八吋點射	三〇式 十八吋	一時一分 一秒	參	九	六	高等科一等 空水管証狀	柴田安一郎 一等官曹
東雲	七	掃式水上 十八吋點射	三〇式 十八吋	一時一分 一秒	參	九	七	高等科一等 空水管証狀	廣田千代松 一等官曹
東雲	八	掃式水上 十八吋點射	三〇式 十八吋	一時一分 一秒	參	六	五	高等科一等 空水管証狀	栢尾勤三 二等官曹

明治四十四年 七月二十五日

竹敷要港部司令官寺垣猪三

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

C904

極秘

魚形水雷發射報告 第二表

第十一號隊檢定發射成績表

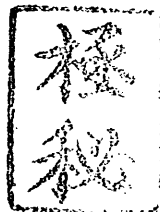
艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
叢雲	一	梯式水上 十八吋形	三〇式 十八吋	〇時 一分	參	參	九〇	高等科一等 衆水雷艇隊	中島 浩一
叢雲	二	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	九〇	高等科一等 衆水雷艇隊	三浦 清
夕霧	三	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	八七	普通科一等 衆水雷艇隊	三浦 清
夕霧	四	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	八七	普通科一等 衆水雷艇隊	左山 宗太郎
文霧	五	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	九七	高等科一等 衆水雷艇隊	佐野 元
不知火	六	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	四三	高等科一等 衆水雷艇隊	谷口 和藏
不知火	七	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	四三	高等科一等 衆水雷艇隊	川浪 幸助
陽炎	八	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	四三	高等科一等 衆水雷艇隊	有川 仁助
陽炎	九	梯式水上 十八吋形	三二式 十八吋	〇時 一分	參	參	四三	高等科一等 衆水雷艇隊	森 常七助

明治四十四年 七月二十五日

竹敷要港部司令官寺垣猪三

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

0905



魚形水雷發射報告 第二表

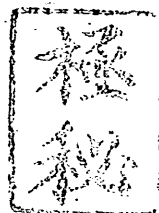
第十二艇隊檢定發射成績表

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
第一號	一三	係式水上 十四吋固定	三〇式 十四吋	一〇分	參	參	六六	普通科一等 水雷發射	馬場 政喜
第二號	一四	係式水上 十四吋	三二式 十四吋	一〇分	參	參	六三	普通科一等 水雷發射	野口 清右衛門
第三號	二七	係式水上 十四吋	三〇式 十四吋	一〇分	參	貳	四七	普通科一等 水雷發射	中島 信太郎
第四號	三一	係式水上 十四吋固定	三〇式 十四吋	一〇分	參	壹	三三	普通科一等 水雷發射	福山 啓作
第五號	三	係式水上 十四吋	三二式 十四吋	一〇分	參	參	六三	普通科一等 水雷發射	藤方 信松
第六號	六	係式水上 十四吋	三二式 十四吋	一〇分	貳	壹	三三	普通科一等 水雷發射	上井 次吉
第七號	三二	係式水上 十四吋	三〇式 十四吋	一〇分	參	參	六三	普通科一等 水雷發射	知藏 高
第八號	四	係式水上 十四吋	三〇式 十四吋	一〇分	參	貳	四三	普通科一等 水雷發射	柳 半四郎
第九號	一八	係式水上 十四吋	四一式 十四吋	一〇分	參	貳	四三	普通科一等 水雷發射	谷村 九一郎
第十號	二七	係式水上 十四吋	三〇式 十四吋	一〇分	參	貳	四〇	普通科一等 水雷發射	

明治四十四年 七月二十五日

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

0906



魚形水雷發射報告 第二表

檢定發射成績表

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
陸奥丸	二四	保式水上 高時形	三〇式 十四吋	〇分 〇秒	參	參	〇	陸奥丸 水雷部	古河 亦
陸奥丸	三五	保式水上 十四吋形	三〇式 十四吋	〇分 〇秒	參	參	〇	陸奥丸 水雷部	古河 亦

明治四十四年 七月二十五日

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

竹敷妻港部司令官寺垣 謹

竹敷 官印

C907

魚形水雷發射報告 第二表

第三艇隊 檢定發射成績表

艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
水雷艇 第三號	三〇	佛式水上 十吋固定	二〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	壹	〇	普通科一等 學水雷証狀	南 又七
第六號	一	佛式水上 十吋固定	三二式 十四吋	〇時五分 〇分	參	參	〇	高等科一等 學水雷証狀	伊地知 成美
第七號	二九	佛式水上 十吋固定	三二式 十四吋	一時八分 〇分	參	貳	四三	高等科一等 學水雷証狀	古賀 伍平
第八號	三五	佛式水上 十吋固定	三〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	壹	六六七	普通科二等 學水雷証狀	山崎 南太郎
第九號	九	佛式水上 十吋固定	三〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	參	九三三	普通科二等 學水雷証狀	安南 德藏
第十號	一〇	佛式水上 十吋固定	三二式 十四吋	〇時五分 〇分	參	參	九三三	普通科一等 學水雷証狀	尾木 仙三
第十一號	一〇	佛式水上 十吋固定	三〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	貳	六三三	普通科一等 學水雷証狀	大崎 栄吉
第十二號	一七	佛式水上 十吋固定	三〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	貳	高三	普通科一等 學水雷証狀	馬場 博之
第十三號	二五	佛式水上 十吋固定	三二式 十四吋	〇時五分 〇分	參	貳	六三三	普通科一等 學水雷証狀	志村 牧右衛門
第十四號	三六	佛式水上 十吋固定	三〇式 十四吋	〇時五分 〇分	參	〇	〇	普通科一等 學水雷証狀	養 秀雄

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

明治 年 月 日

C908

魚形水雷發射報告 第二表

檢定發射成績表

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
第五號	三三	棉式水上 高叶點形	三〇式 十四叶	〇時 四分	參	貳	三七	高等科一等 水雷証狀	大八郎
第六號	三三	棉式水上 高叶點形	三〇式 十四叶	〇時 四分	參	貳	三七	高等科一等 水雷証狀	池田金吾衛

明治四十四年七月二十五日

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

竹敷要港部司令官寺垣

竹敷要港部
司令官
寺垣
印

0909

魚形水雷發射報告 第二表

第十五艇隊檢定發射成績表

艦艇名	成績順序	發射機ノ種類	水雷ノ種類	準備時間	發射數	命中數	得點百分比	證狀	照準手官職氏名
鷓	一九	掃式水上 十時點射	三二式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	貳	六三三	普通科一等 魚水雷証狀	山本 光三郎
鷓	二二	掃式水上 十時點射	三〇式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	貳	六〇〇	普通科一等 魚水雷証狀	早土 徳太郎
鷓	二三	掃式水上 十時點射	三〇式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	貳	六〇〇	普通科一等 魚水雷証狀	高島 政市
鷓	一三	掃式水上 十時點射	三〇式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	六六六	普通科一等 魚水雷証狀	春田 有壽
鷓	七	掃式水上 十時點射	三二式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	六五〇	普通科一等 魚水雷証狀	廣田 祐次郎
鷓	三四	掃式水上 十時點射	三二式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	壹	六六六	普通科一等 魚水雷証狀	山本 中三
鷓	二	掃式水上 十時點射	三〇式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	六三三	普通科一等 魚水雷証狀	白川 千代吉
鷓	八	掃式水上 十時點射	三二式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	六三三	普通科一等 魚水雷証狀	島岡 英太郎
鷓	一五	掃式水上 十時點射	三二式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	七三六	普通科一等 魚水雷証狀	中田 龜藏
雲雀	一一	掃式水上 十時點射	四一式 十四吋	〇時五分 〇秒	參	參	九三三	普通科一等 魚水雷証狀	大石 根常一

一、本表ハ檢定發射一所管ノ成績報告ニ使用スルモノトス

C910

明治四十四年魚形水雷檢定發射實施規程ニ對スル意見

(改) 第四條發射機負ハ其固有發射機ニ付艦艇ニ於テ當該發射機用
トシテ定メル魚雷ヲ發射スルモ、但シニ或ル實發射セザルヲ得

理由本年發射ニ於テニ或ル魚雷ヲ檢定發射ニ使用スル事ナリ各

艇共以テ魚雷ヲ射シ全カラ任ヤ發射ヲ遂ケルモ其苦心諒ス(オモ)

アリ故ニ本部ニ在テニ或ニ限リ檢定發射ノ爲メ分解調整後滿

寫試發射ヲ許可シ照準手ノ自信カラ養生セシメタルモ然レモ昨

日直進セシ魚雷ハ或ハ或ニ變調ヲ生シ檢定當日大偏斜ヲ來シ

本發射ニ使用セシ上本ノ中命中セシモノ、三發ニ過キ之レ魚雷楯

造上缺點モシテ射手ノ技術ニ依ラサルモノ多シ故ニ或ル魚雷ヲ有ス

ル照準手ハ初ヨリ細心觀シ氣乗ルモノ、已ニ而モ受當セシモノ多シ

魚雷一發ノ爲メ長蛇ヲ遣セシ感アルモノアリ甚シク此致不淨ノ境

遇之凡良照俾時之船長之ヲ憐察ノ旨實施規程發布ヲ見其那
 署ヲ變更シテ之ヲ有ヤル他ノ發射管ノ照準手ト交代セシメカ
 同部下ニ對スル厚薄ノ感情惹起スルヲ免シス之ニ上長先者ノ
 爲之ニ力ヒカシク所冀ルヲ故ノ寧日如ク實雷ハ檢査發射ニ使
 用ヤル下ニテ之ヲ可ク且但し其ノ固有實雷ノ性能ヲ知ラシムル爲メ發
 射セシムルニ對シ必要トスル各種水雷發射ニ於ケル標的射程速力
 及發射回数ヲ定ル表中ニ記入シ發射セシムルニ如ク之ニ實雷以
 テ安スル船ニ在リテ之ヲ發射セシムルヲ可ナリ然レ本條ノ故止ニ安スル所
 以ナリ

(改) 第九條 實雷及發射機ハ一發射機毎ニ二個(三式者ハ發射機及發射
 機ニ在リテ)ヲ使用シ九ノ順序ニ依リ規定ノ數ヲ發射スルモノトス

第一回 第三回ハ各實雷ニ就テ裝氣及調整終リ先モ之ヲ用ニ第回
 ハ第二回若クハ第三回ニ發射シタルモノヲ採收シ使用スルモノトス

但ニ之ヲ有スル發射機ニ在テハ同一與雷ヲ三回使用シ得ル改ム

理由第四條改正ノ理由ニ依ル

(改)第十三條表中

(一)二十五節以上三十五節以内ノ與雷速力誤測ニ對スル減與ヲ區別
セズ其ノ全與ヲ二十與トシ之ヲ照準手ノ得與トシテ戰術發射得與
中ニ加ス

(二)備差ニ對スル全與ヲ一〇〇與トス

理由、細心ナル注意ヲ以テ測定セシ雷速ハ與雷速力ヲニテ區
別スル必要ナシ猶ホ其ノ誤測量ニ對スル全與ヲ照準手ノ得與中
ニ加味スルノ穩當ヲ欲リ、嫌ヒアルヲ以テ寧ロ戰術發射得與中ニ加
スルニ若カサルモノト信ス

毎
頁

竹更機底山第一五九號

魚形水雷艇定裝射之對し講評并訓示

第十驅逐隊

一、本年四月以降第一隊係特別定員ト遂クシ
教練ヲ行フノ期少ナカリシニ係ラス其ノ成績比
較的優良ナリト平素研究充練磨ノ結果シ
テ本隊ノ満足スル所トモ連前部第一回及本
雲后部第二回ノ發射ニ於テ大偏斜ヲ生シ
タルモノアルハ遺憾ナリ

第十一驅逐隊

一、陽炎ノ發射成績不良ノ爲メ隊ノ集合成績
ヲ低下セシメタルハ遺憾ナリ又魚ノ高連力ニ對ス
ル誤差ハ多ク露ヲ除ク外比較的タカカリハ尚ホ

一層ノ研究ヲ要ス

第十一艇隊

一、熱心訓練ヲ行ヒ且ニ圖セテ成績ノ副ハサリシハ
遺憾ナリ又不及ノ為メ後射時核ヲ失ヒタ
ルト莫雷庫力ニ對シテ失臭後射隊中最
モ多クカリシハ一層ノ注意ヲ要ス

第十二艇隊

一、各艇共其ノ成績概シテ良好ナリ又今所教
練上ニ層ノ研究ヲ望ム

第十五艇隊

一、後射及射中莫雷庫力檢定ニ勉メ且ニ跡ヲ
認ルモ成績概シテ可ナリ又尚一層ノ訓練ヲ要

又

數級隊

一成績概シテ良好トス平素勇猛ノ調整取扱、

於テ一層奮闘及訓練ヲ要ス

要スルニ本年度於テ是度射ハ發射上困難ナルコト多キニ因セズ其ノ成績昨年度之比シ大ニ進境、生リシハ各自年素熱心教練、従事セシ結果、テ衷心愉快ニ感スル所ナリ殊ニ勇猛隊力ノ決定及勇猛隊於テ尤ニ之ニ或勇猛隊射ノ如キハ幸ニ苦心ノ存セシマシムヘシトモ亦各自ヲ啓及及シ、多クナルヘシト信ス觀テ勇猛隊不命中ノ結果、終リシ者、就テ各各自其ノ原因ヲ探査シ、既ニ自覺スル所アルヘキヲ以テ茲ニ奮闘セストモ亦余途練精進スルニ充分ノ餘地アルコト認ム各自益々奮

勵研鑄練磨所謂一處必中ノ妙域ノ達センヨ
ト期セヨ福野紙前年度ノ成績ト比較シ考
考ニ次見セントス

明治四十四年七月十五日

外敷要港中司令官寺垣猪三

0919

海

外

明治四十四年七月三十日

富本竹敷要港部副官

山梨海軍省所部

教育本部

七月二十日所部要港部第一号事務。以下想中致修官部
度下船艇檢定中船射命務別表年事者、通リ證
有是等雜計信條若し相違し、修官部訂正あり

此の中、おめい

此等事務之、修官部事務

訂正あり

〇

訂正あり

C920

第十		第二十											隊						
第十		第二											隊						
第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號	第八號	第九號	第十號	第十一號	第十二號	第十三號	第十四號	第十五號	第十六號	第十七號	第十八號	第十九號	第二十號
三五	二九	一	三〇	五	二四	一三	一四	二	三	六	三二	四	一八	二七	七	七	七	七	七
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
〇三五〇	〇三八〇	〇四〇〇	〇三〇〇	〇四〇〇	〇四五〇	〇二五〇	〇三四〇	〇三五〇	〇三四〇	〇四六〇	〇三七〇	〇四六〇	〇三九〇	〇二六〇	〇四〇〇	〇五八〇	〇四九〇	〇四九〇	〇四九〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三
一	二	三	一	三	三	三	三	二	一	三	三	一	二	二	二	二	三	三	三
一六七	四三	一〇〇	一三〇	九三	一〇六	八七	七六	四九	二六	九七	九七	九三	六四	五〇	六四	四五	三三	三三	三三
普一水	會	高一水	會	會	會	會	會	普一砲	普一水	高一水	普一水	會	會	會	普一水	會	會	會	會
一等水兵	一等兵曹	一等兵曹	一等水兵	一等兵曹	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等兵曹	一等水兵	一等兵曹	一等水兵	一等水兵	一等兵曹	一等水兵	一等兵曹	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵
山崎角太郎	古賀伍平	伊地知威美	南又七	古河亦吉	中崎正一	馬場政喜	野口音右衛門	前安彦	中島壯太郎	福山寶作	緒方房松	井次吉	知識高	半田郡	谷村九一郎	榮之助	有川仁助	波幸助	波幸助

第五十艇隊										第三艇隊							
雲雀	雲雀	踏	踏	踏	鷺	鷺	鷺	鷺	鷺	鷺	第廿五號	第廿六號	第廿七號	第廿八號	第廿九號	第三十號	第三十一號
二六	一一	一五	八	二	三四	七	一二	二三	二二	一九	三三	三六	三五	一七	二〇	一〇	九
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
三式出射	四式出射	全	三式出射	三式出射	三式出射	全	三式出射	全	全	三式出射	三式出射	全	三式出射	三式出射	三式出射	三式出射	三式出射
一〇	〇五三〇	〇五五	〇三七五	〇三四五	〇五七〇	〇三六〇	〇三五〇	〇三六五	〇四七〇	〇三六〇	〇四二〇	〇四五〇	〇五四〇	〇三五〇	〇三五〇	〇三〇〇	〇三七〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二	三	三	三	三	一	三	三	二	二	二	一	二	〇	二	二	三	三
五六七	九七	七三	九三	九八	六六	九五	六六	六〇	六一	六三	六六	六六	五八	六四	六六	九二	九二
		全	普一水	高一水		全	全	全	普一水	高一水	普一水	高一水	全	全	全	普一水	普二水
一等兵曹 服部慶造	二等兵曹 大岩根宗一	二等兵曹 戸田熊藏	二等兵曹 島岡英太郎	二等兵曹 白川千代吉	二等兵曹 山本忠三	二等兵曹 河田松次郎	二等兵曹 春田虎壽	二等兵曹 高島政市	二等水兵 早上徳太郎	二等兵曹 岩光三助	二等水兵 池田金兵衛	二等兵曹 大庭八郎	二等水兵 養秀雄	二等兵曹 志村牧五門	二等水兵 馬場博之	二等水兵 大崎米吉	二等兵曹 黒木仙二

C923

隊設數			
第一海防隊	第二海防隊	第三海防隊	雲雀
三	二	一	一六
全	全	發射櫃	全
全	全	三四式大吋	三式四吋
二五〇	二七〇	二二〇	四〇〇
三	三	三	三
一	二	二	二
二六七	六三三	四〇〇	六五〇
普一水	高一水	高一水	普一水
三等兵曹陣内政吉	三等兵曹佐保一郎	三等兵曹龜井長藏	三等水兵入田勇

明治四十四年七月 日

竹敷要港部司令官寺垣猪三

C924